

舞鶴市立舞鶴幼稚園の資料整理と 130 周年記念事業

—京都歴史資料の調査・活用・公開①—

東 昇

2014 年度から、地域貢献型特別研究費（ACTR）の事業として「京都歴史資料の調査・活用・公開—舞鶴幼稚園と京田辺市—」（代表：東昇）の調査と研究を実施した。

舞鶴市教育委員会・舞鶴市立舞鶴幼稚園の提案は、府下現存最古の幼稚園として 130 周年を迎える今年、記念事業や記念誌編纂を共同で実施したいという内容であった。幼稚園資料は整理後には市指定文化財への申請を予定している。舞鶴市に加えて京田辺市からの提案を、同じ京都府下の歴史資料に関する調査・活用・公開という研究としてまとめ進めている。

研究体制は、歴史学科の横内裕人が研究分担者となり、これに舞鶴市教育委員会、舞鶴幼稚園が研究協力者として加わっている。

1. 舞鶴幼稚園資料の調査

舞鶴幼稚園は、明治 17 年(1884)開園、現存では京都府下最古、全国でも 6 番目の歴史がある。明治 29 年の水害や園舎の移転によって、多くの文書は失われたが、園児のための教材（掛図・フレーベル恩物・紙芝居）や園児の作品・写真などは守り受けつがれている。

舞鶴幼稚園資料は 2013 年度 ACTR「舞鶴市の文化遺産の調査と活用」（研究代表者上杉和央）の研究分担者として調査を開始した。2013 年 11 月 23・24 日、2014 年 3 月 1・2 日、6 月 7・8 日、2015 年 2 月 28 日に舞鶴幼稚園、舞鶴市郷土資料館において現地調査を実施した。文化情報学ゼミの院生・学生とともに、幼稚園の文書やアルバム、教材などの目録作成、撮影を行った。日頃授業で整理している文書と違い、多様な形態・内容の資料整理は学生にとってもよい経験となった。6 月 8 日には幼稚園の元園長・教員の方々に聞き取り調査を行い、資料では判明しなかった戦時下・戦後の様子をうかがうことができた。

また写真や卒園アルバムは、明治 30 年代以降現在まで現存する貴重な資料である。昭和 30 年代以前は大学の大型スキャナーを利用し高精細画像を作成、昭和 40 年代以降は、デジタルカメラで撮影を行った。高精細画像の作成は、詳細な写真の調査・分析にも利用できるが、文化財保存の防災措置としても有効である。

2. 130 周年記念事業と記念誌・展示・講演

今年度は、2014 年 11 月の式典にあわせて記念誌を刊行することとなり、その準備として、まず授業で学生と「幼稚園沿革史」を解説し、各自関連事項の調査を報告した。幼稚園のことを理解するために歴史的な背景を学ぶ必要があり、『舞鶴市史』、舞鶴幼稚園 100 周年記念誌『百年のあゆみ』（1984 年）、舞鶴市郷土資料館企画展「舞鶴幼稚園」（2006 年）解説資料を参考にした。本成果は、学生が分担した記念誌の年表として活かされている。この作業と平行して、写真や卒園アルバムの画像を中心とした記念誌の準備を行った。

11 月 1 日に開催された 130 周年記念式典では、記念誌の刊行、記念講演会、関連展示を実施した。特に関連展示は、前日に幼稚園の一室を使い、貴重な資料展示を行った。1 日の記念式典では、まず記念誌が配布され、祝辞や園児の合唱披露などが行われ、最後に記念撮影となった。式典に学生とともに参加したことは、貴重な経験でありつつ、微力ではあったが自分たちが調べてきた歴史に連なることとなり、当事者の一人としてこの事業を考えることができた。式典終了後、東昇が「舞鶴幼稚園 130 年のあゆみー文化遺産を伝えるためにー」と題して講演を行った。

記念誌の『舞鶴幼稚園 130 年のあゆみー受けつぐ文化遺産ー』は、舞鶴幼稚園創立 130 周年実行委員会と共同で出版した。内容は A5 版、96 頁、カラー版で、前半は挨拶、歴代園長一覧、年表を掲載し、後半は「写真にみる幼稚園・園児・行事のうつりかわり」「受けつがれてきた教材・遊具・作品」、「幼稚園の思い出を語る」として、写真を中心とする図録形式とした。130 周年記念に関して、各新聞社（毎日・朝日・産経・京都・読売）の記事にも掲載された。これらの詳細は、学生がまとめた報告を参照いただきたい。

11 月 11 日～12 月 21 日、舞鶴市郷土資料館において企画展「舞鶴幼稚園 130 年のあゆみー受けつぐ文化遺産ー」が開催された。今回の調査の成果を展示したもので、11 月 24 日には記念講演会を行った。今後、来年度以降、市文化財指定にむけて残りの資料調査を行い、幼稚園資料の重要性を地域に紹介し活用を考えていく予定である。



2013 年 11 月 22 日舞鶴幼稚園での調査